

経営比較分析表

埼玉県 羽生市

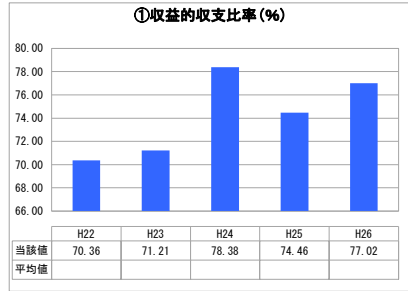
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cb2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	36.38	78.77	1,890

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,886	58.64	953.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,315	4.06	5,003.69

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

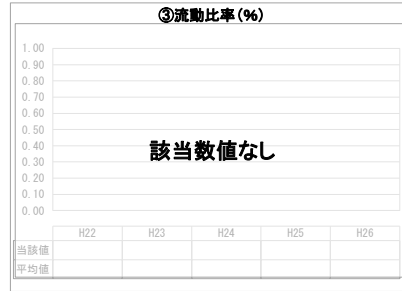
1. 経営の健全性・効率性



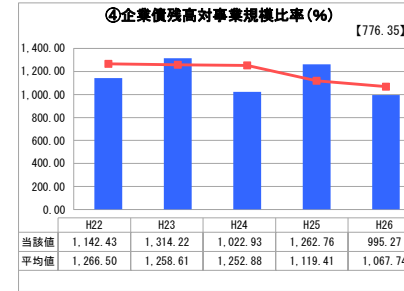
「単年度の収支」



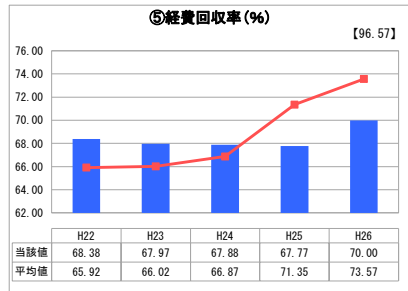
「累積欠損」



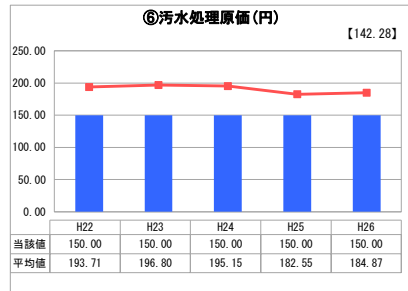
「支払能力」



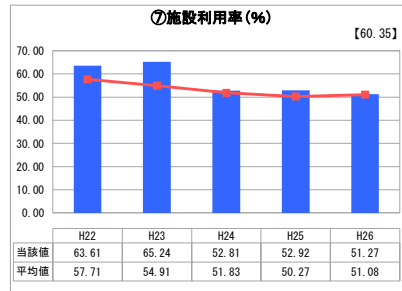
「債務残高」



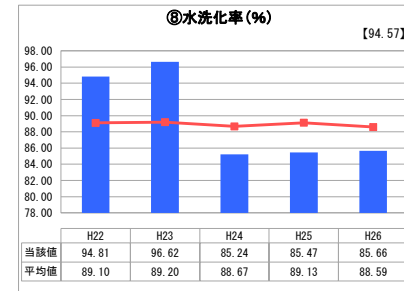
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

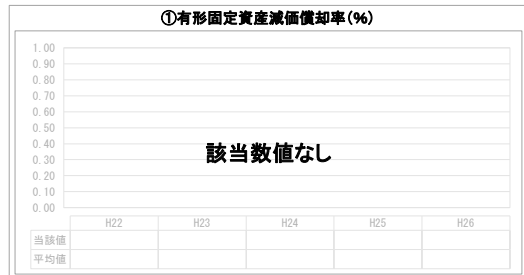


「施設の効率性」

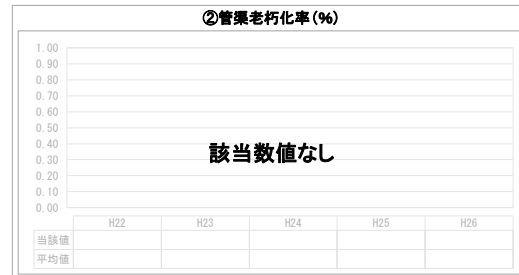


「使用料対象の捕捉」

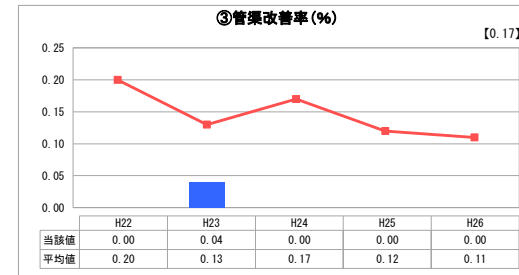
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

企業債残高対事業規模比率は減少傾向にあるが、未だ高い状況、経費回収率は類似団体平均と比較しても差が出てきており、料金水準の適切性の改善が必要である。施設利用率に関しては、今後施設の改築更新工事が予定されていることから、改善される見込だが、水洗化率向上のため加入促進活動を継続して行ってきたい。

2. 老朽化の状況について

管渠施設で最も古い物では40年を経過しているが、今後は耐用年数以前にストックマネジメント計画の作成を計画したいと考えている。

全体総括

全国的に下水道事業は、人口減少や施設の老朽化が大きな課題となっている中、当市でも独立採算制の原則に基づき、経済性を発揮するため、地方公営企業法の適用に向けた業務を進めている。今後は、経営基盤強化に向けた取り組みを進め、経営の健全性・効率性の改善を図りたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。